



今回は 法政大学准教授 野田岳仁先生講演会 の報告です。

◇ 野田岳仁先生による「水とまちづくり」をテーマとした講演会を行いました。

講師： 現代福祉学部 野田岳仁 准教授
日時： 令和元年12月17日(火)
第一部 模擬講義 14:30 ~ 15:20
第二部 入試説明 15:30 ~ 16:00
会場： 関高等学校 桜ヶ丘会館 (3階 大教室)

◇ 講師の先生の紹介

先生のご専門は、水をテーマとした環境問題、まちづくり、観光、コミュニティ、災害の研究です。関市のご出身で、10歳のころ、すでに水環境問題に関心を持っていたそうです。02年に「第3回世界水フォーラム事務局」チーフを兼任し、03年には第3回世界水フォーラムではオランダ皇太子ら世界のリーダーと50ヵ国1,500人の若者を集めた「ユース世界水フォーラム」の責任者を務めるなど、大学生のころから世界を舞台に活躍されました。

気さくなお人柄で、当日参加した生徒や一般市民の方々にも、分かりやすい口調でお話をされ、講演が終わっても盛んに質疑に応じていただきました。

◇ 当日の様子

「水を生かしたまちづくり」について、各地の事例をもとにわかりやすくお話をいただきました。水への信仰が現在でも関市やその周辺部に残っていること、そうした信仰が結果的に水環境の保全に役立ってきたこと、近年話題の訪日外国人観光客の間では日本人の伝統的な水との関わり（生活・信仰・遊び等）に関心があつまっていることなど、興味深い話が続きました。

なかでも、滋賀県の川端（かばた）集落の事例は、会場に集まった参加者の興味を引きました。郡上八幡の水槽（みずぶね）と類似した湧水利用や水を大切にしていた日常生活が、多くの観光客の心をとらえている反面、観光による弊害・問題（いわゆるオーバーツーリズムの諸問題）にどう対処すべきかなど、具体的な問題提起もありました。

地域資源を生かした観光開発と、自然や地域住民の生活保全をどのように両立させていけばよいのか。関高校SGH活動の課題研究においても、こうした課題に取り組んでいる生徒は多数います。「将来、地方公務員として地域のために働きたい」「観光業界でインバウンド誘致に取り組みたい」「岐阜県の自然環境に関心がある」といった生徒が集まり、活発な質疑応答が行われました。

